NIE実践報告

1．タイトル：社会の動きに関心をもたせる新聞活用

2．学校名

兵庫県猪名川町立猪名川中学校

3．実践者名（代表者名）

鈴木満由美

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　206人

6．単元（本時の学習課題）名

「近現代の日本と世界」

7．目標（狙い）

「洞爺湖サミット」での日本の役割と「太平洋戦争」までの歩みを学習し、世界の動きと我が国との関連をとらえ、国際協調や国際平和の実現に努めることが大切であることを気づかせる。

8．評価の視点

関連記事を多く収集し、課題にあった整理ができたか。そして、環境問題に果たす日本の役割、今後、戦争や争いを回避し、国際社会で生きるにはどうすればよいのかを考える。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「二度の世界大戦と日本」(大阪書籍)　6時間
「国際社会と日本の役割」(大阪書籍)　4時間　合計10時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①収集した新聞記事をまとめる。(宿題+1時間)
②サミットに関する新聞記事を課題に従いよみとる。(1時間)
③サミットのテーマの１つである地球温暖化対策について、考える。(2時間)
④収集した記事から金融危機とその対策を考え、自分の意見をまとめる。(宿題+1時間)
⑤収集した記事も含め、太平洋戦争までの歩みを外交・内政・経済面から考えまとめる。(2時間)
⑥「太平洋戦争は日本政府にとって避けることができた戦争か否か」でディベートをする。(2時間)
⑦新聞記事の読解も含め、国際協調・国際平和の実現に努めることの大切さに気づく。(1時間)

(留意点)
・毎時間、社会的事象に関するニュースを発表をさせて、国際社会に関心をもたせ、まとめて発表できる表現力や感想をいえる思考力を身につけるように支援する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

サミットとか隣国に関することという具体的な課題の場合、何枚もの感想つきのレポートを提出する生徒がふえた。漢字の勉強になるとの声も聞く。

12．成果と課題

去年のニュースの入手源はテレビ(今年の調査63%)が多かったけれど、細部までわかるように新聞(同47%)も読む生徒が多くなった。3人に1人は興味のある芸能やスポーツと、ニュース発表対策のためか１面に目を通すのが日課とになってきた。
ただ、新聞に触れる時間が10分以下と短く、写真や見出しを中心に見ているにすぎない。文章をじっくりと読み、微妙なニュアンスを感じとり、社会の動きに対応できる生徒の育成に心がけたい。